

## 山口県における普通植物の分布

金井弘夫

184- 小金井市

## Distribution of Popular Plants in Yamaguchi Prefecture, Western Japan

Hiroo Kanai

Koganei, Tokyo, 184- JAPAN

(Received on August 24, 2000)

Distribution of 31 popular plants (Tab. 1 and Figs. 2–16) in Yamaguchi Prefecture, Chugoku District, western Japan was surveyed (Fig. 1) in cooperation with local botanists. *Reynoutria sachalinensis* was not detected. *Humulus japonicus* and *Portulaca oleracea* were restricted to lowland. *Macleaya cordata*, *Adenocaulon himalaicum* and *Kerria japonica* were restricted to hill region. *Youngia denticulata* and *Cayratia japonica* occupied lowland with some advance into hill region.

**Key words:** distribution, popular plants, yamaguchi

山口県における普通植物の分布調査を、1998–1999年に地域在住研究者の協力を得て行った。分布情報を提供していただいた秋丸浩毅氏、今田岳村氏、上野達也氏、咲花文隆氏、末広雄次氏、鶴谷 保氏、真崎 久氏、真崎 博氏、松崎秀人氏、三宅貞敏氏に感謝する。とりわけ協力者の紹介をいただいた真崎博氏に重ねて謝意を表する。手法については金井（1993, 1995）を参照されたい。

### 結 果

分布情報の数は総計12,656件であった。このうち記録年が不明なものをのぞいて12,330件を利用した。本報では表示メッシュを5倍メッシュ（2.5万図の1/4）とする。この場合県の全メッシュ数は309個である。このうち本州本土（屋代島を含む）の分は286個（t）、その中で有効メッシュ（なんらかの情報が得られたメッシュ）は262個（v）（図1）、有効メッシュ率（v/t）は91.6%である。この値は

これ迄の他県の結果と比較して、調査がきわめてよく行われたことを意味する。有効メッシュ率の計算に小島嶼を除外する理由は、島嶼部では調査が行き届きにくく、一様な調査が困難であること、および表示メッシュと比較して小面積の島が多いので、これらを含めるといたずらに有効メッシュ率を引き下げることになるためである。この方針は他県の調査についても同様である。また、種類ごとの分布密度も、本土（屋代島を含む）における分布点数を分子とし、262を分母として計算した。情報の年代は1970年代以降が96%を占めていたので、すべて一括して扱った。

オオイタドリは記録されなかった。カナムグラ、スベリヒユは低地部に偏っており、タケニグサ、ノブキ、ヤマブキは山地部に偏っていた。ヤクシソウ、ヤブカラシは低地部が主体で、山地部に多少の進出がみられた。これらのパターンは等高線入りの水平分布図では察知されるが、100 m単位の垂直分布図では

表 1. 調査対象植物と分布密度. 配列は植物コード順. 植物コード: 環境庁 (1987) の種番号 (Plant code. Environment Agency 1987). 情報数 (Record size): 植物産地の件数 (Number of record). 分布点数 (No. of point): 表示用メッシュ (本報では 5 倍メッシュ) において, その種が存在するメッシュ (島嶼部を除外) の数 (Number of mesh in mainland with plant record) = a. 分布密度 (Density %) =  $a/264^*$ .

\*Valid mesh in mainland. \*\*Including *Tracherospermum jasminoides*.

植物名	Plant Name	植物コード Plant code	情報数 Records size	分布点数 (a) No. of Point in Mainland	分布密度 Density (%) (a/264*)	分布図 Fig.
カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>	12600	80	54	20	4B
イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	14320	465	165	62	3A
オオイタドリ	<i>Reynoutria sachalinensis</i>	14360	0	0	0	
スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	14600	79	49	18	8B
ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>	15130	199	105	39	10A
アケビ	<i>Akebia quinata</i>	19210	437	156	59	2B
ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	19510	239	121	45	11B
タケニグサ	<i>Macleaya cordata</i>	21570	115	60	22	9A
ナズナ	<i>Capsella bursapastoris</i>	21830	229	122	46	12A
ヤマブキ	<i>Kerria japonica</i>	25390	32	24	9	16B
ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	27170	566	195	73	12B
ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	28220	518	185	70	13B
コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctori</i>	28960	199	113	42	7A
クズ	<i>Pueraria lobata</i>	29680	816	232	87	6A
シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	29860	637	207	78	7B
ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>	30630	455	173	65	6B
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	31350	844	231	87	2A
ヌルデ	<i>Rhus javanica</i>	32260	642	208	78	13A
ヤブカラシ	<i>Cayratia japonica</i>	34850	217	106	40	16A
テイカカズラ	<i>Tracherospermum asiaticum**</i>	45190	588	198	75	11A
ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	46740	713	220	83	15A
クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	47850	490	174	65	5B
オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>	51420	420	175	66	3B
キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	51690	298	135	51	5A
オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>	52300	778	215	81	4A
スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>	52720	710	206	78	8A
ノブキ	<i>Adenocaulon himalaicum</i>	54480	64	34	12	14A
フキ	<i>Petasites japonicus</i>	58870	485	180	68	14B
ヤクシソウ	<i>Youngia denticulata</i>	60390	284	132	50	15B
ツククサ	<i>Commelina communis</i>	65090	514	193	73	10B
チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	69520	217	121	45	9B
全数	Total number		12330			1

ははっきりしない程度のものである。

### 「普通さ」について

「普通」ということは, ある地域にある密度以上でまんべんなく広がっていること, と考えてよからう。これを表現するために最も重要なのは, 表示メッシュのサイズである。本報告では表示に 5 倍メッシュを用いているので, 以下の判断はその限りに於いてのものであり, かつきわめて感覚的なものである。有効メッシュ率が大きくないと, こういう判

断を行う材料にはならないだろう。本報では海岸植物や高山植物を扱っておらず, 地域内の高度差が少ないことも, 以下のような考察には有利である。

水平分布図をザッと見渡して, 「普通」であることに違和感を覚えないのは, 分布密度が 50 % 程度までである。30 % 以下 (カナムグラ, スベリヒユ, タケニグサ, ノブキ, ヤマブキ) では, 地域による偏りが明らかに見てとれる。30-40 % 台 (コマツナギ, チカラシバ, ツメクサ, ドクダミ, ナズナ, ヤクシソ

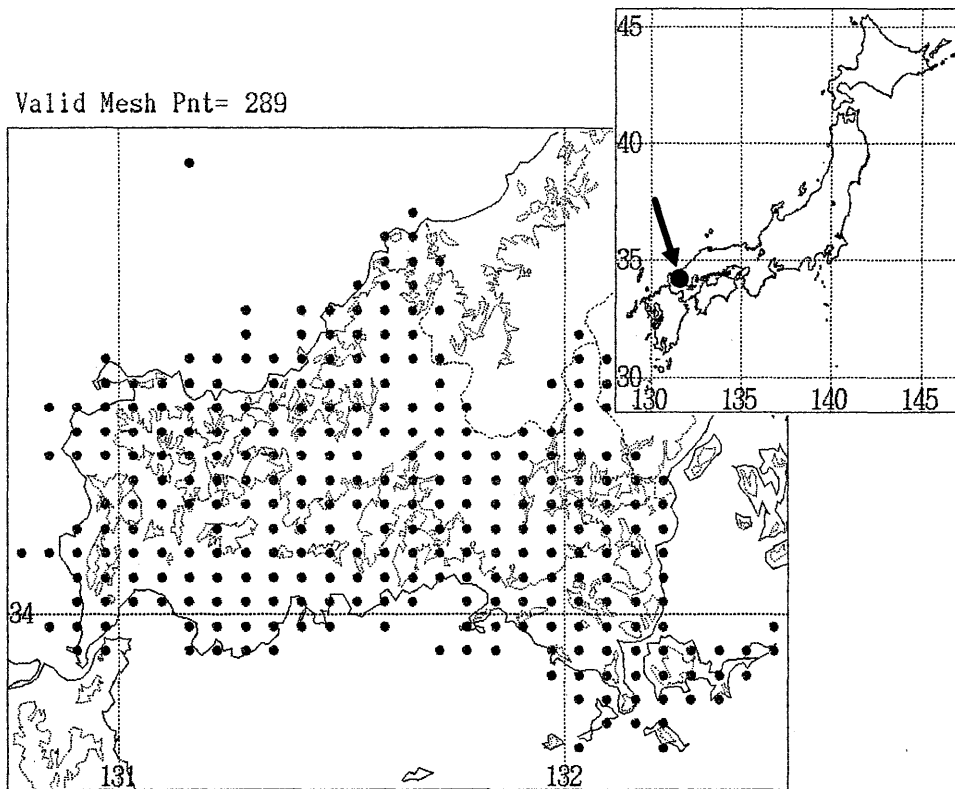


図 1. 有効メッシュ. 等高線は200 m. (Valid mesh. Contour 200 m.)

ウ、ヤブカラシ)では、「普通」とするには多少の違和感があり、近隣地域の分布も含めて考察する必要がある。

#### 調査対象植物について

表1に示す31種類は、オオイタドリを除いて、中部日本の植物誌では、産地を記録するまでもない「普通種」として扱われ、標本も乏しいため、かえって分布の実体をつかめない。これらの分布を、現在ばかりでなく、過去に遡って記録にとどめることが、本調査の目的である。残念ながら、他県でも同様だが、過去の記録をたどるのに十分なデータは得られていない。オオイタドリについては後述する。

分布調査では、「アル」という記録ばかりでなく、「ナイ」という記録も重要である。しかしながら「ナイ」という事実を記録する手段がない。特定の一種類についての存否の

記録では、「ナイ」ということと「調査しなかった」ということの区別がつかないからである。通常の観察記録では「目についた」植物を記録してゆくが、ある特定の一種類だけについて言えば、それを意識して探したものではない。本調査では、この31種類のリストを用意し、一地点でこれらのみを対象に走査し、目撃された種類をマークする。これ以外の種類については調査対象としない。もしリストされた植物が一種類もなかったときには、その地点を調査したのかしなかったのかは表現のしようがない。そこで、「こんなものならどこにでもどれか一種類はあるだろう」という種類のセットを含めてある。オオバコ、シロツメクサ、イタドリなどがそれで、いわば「普通さ」の基準として採用した。「シロツメクサのような、人為的にバラまかれてどこにでもある種類の分布を調べる意義はない」というご忠告は、複数の方からいただい

るが、これに対する理由はいくつかある。第一の理由は前記の通り、「この地点を調査した」という記録を残すために、こういう種類を取り込んだものである。第二の理由は、植物の分布状態が、時を経ても同じである保証はないからである。1930年代に園芸植物図鑑に載っていたハルジオンが、第2次大戦後に雑草化するとは予想できなかったろう。一方、一時大騒ぎされたセイタカアワダチソウが現在どうなっているのか、話題にのぼらない。これらの分布の変遷が跡づけられれば、環境問題に何らかの鍵が提供されるだろう。シロツメクサも時代を経れば、どんな分布パタンの変化が起こるのか、現在では予測がつかない。第三の理由は、現在の31種類の調査が終了して他のメニューについての調査がもし行われるとき、最初のメニューとの連携を考える上で、いわゆる「コントロール」として同じ種類をいくつか取り込んでおくことが必要と考えるからである。その種類はどこにでもあり、かつ分布パタンの変化がより少ないと予想される植物であることが望ましい。本調査は、時代をへだてて植物の分布がどう変わって行くかを記録することが目的なので、「どこにでもあるから調査の意義はない」という常識に、取反て逆らっているものである。

#### 同定の精度について

本調査は視認情報を主体としている。現在各地で行われているような、「新たに証拠標本を確保する」というやり方はもちろん有意義であるが、個人で行う調査では負担が大きすぎて実行不可能と予測した。それよりは同定の精度が甘くても、調査地点をたくさん得られる視認による方法を選んだ。

標本のない野帳の記録や過去の出版物は、再検討の手段がない。けれども時代を追って変遷をたどるためには、これらの記録を切り捨てるわけにはゆかない。過去の記録と混合するときには、精度は低い方へ揃えざるを得ないので、現時点での同定精度を高めるメリットは少ない。また観察時期を問えない視認調

査では、同定に適切な状態のものを選び好みすることはできず、ときには遠方からの観察のみにとどまることもある。記録は和名によっているため、学名のようなキメ細かい表現ができない。これらの理由で、同定の精度はなるべく甘くし、せいぜい種レベルどまりとしており、ときには近似の他種も含めている。たとえばテイカカズラとケテイカカズラは別種とされているが区別せず、テイカカズラに含めることにしている。

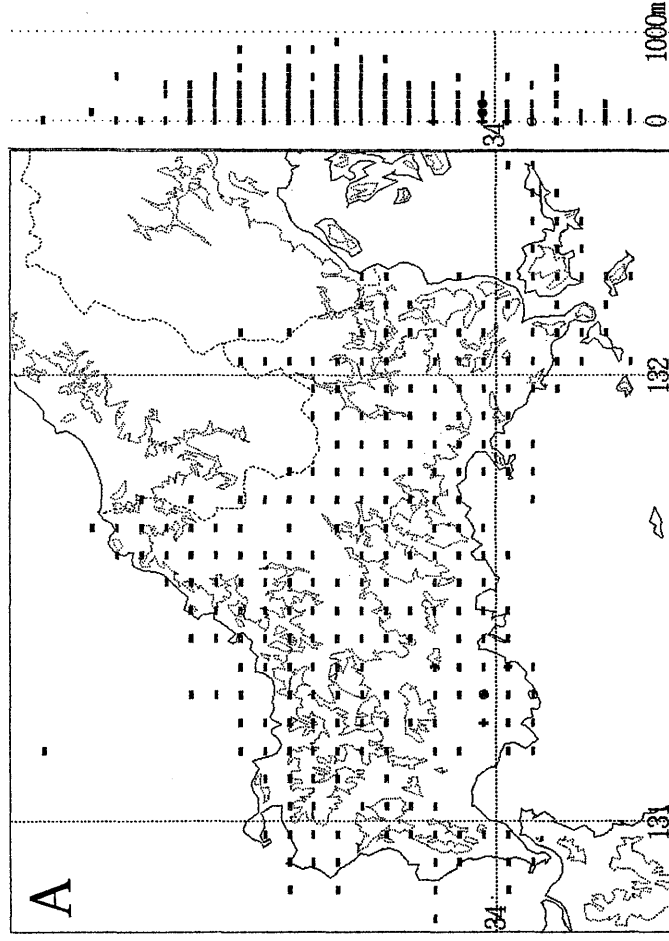
和名と学名の不整合の問題もある。今日ではヌルデは *Rhus javanica* var. *roxburghii* の和名であるので、*R. javanica* に対する和名がない。*R. j.* var. *javanica* には台湾ヌルデの和名があるが、これは *R. javanica* に対応するものではない。結局、「ヌルデ」を拡張解釈して、*R. javanica* に対して用いている。これは種内の様々な分類群に対して一々和名を当てた結果、上位群（つまり種や属そのもの）に対する和名が失われてしまったもので、和名では枚挙にいとまがない。学名の s.l. や s.s. と同様、たいへん困った問題である。

これとは別に、別種だが和名が似ているために混同されそうな種類を、わざと調査対象としたものがある。フキとノブキ、イタドリとオオイタドリがそれである。これらは一方のみだと、わざわざ他方を含めて報告され、結局どちらが視認されたかわからなくなるケースが初期の段階で発生したため、両方とも提示しておくことにした。同様なおそれがある種類は他にもあるが、調査対象種数がふえれば注意が行き届かなくなるおそれがあるので、そのままにしている。

#### 引用文献

- 金井弘夫 1993. 岐阜県における普通植物の分布. 国立科学博物館研究報告 B類 19: 59-78.
- 1995. 滋賀県における普通植物の分布. 国立科学博物館研究報告 B類 21: 131-150.
- 環境庁 1987. 植物目録.
- 安溪貴子 2000. 山口県の「あたりまえの自然」の記録. 山口県植物研究会会報 2(8): 1-3.

アケビガシラ Pnt= 256 Rec= 844



アケビ Pnt= 172 Rec= 437

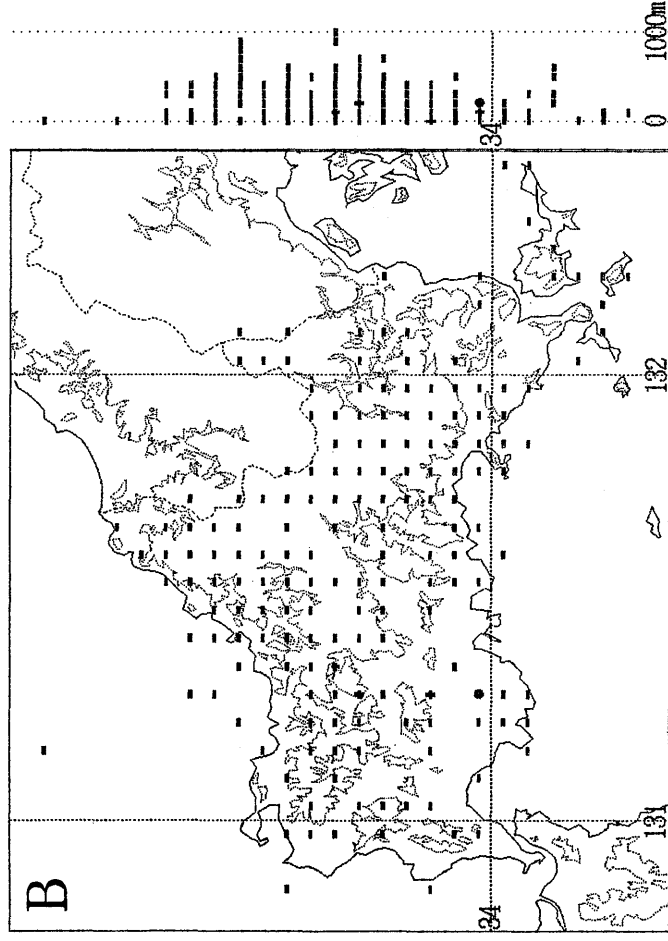
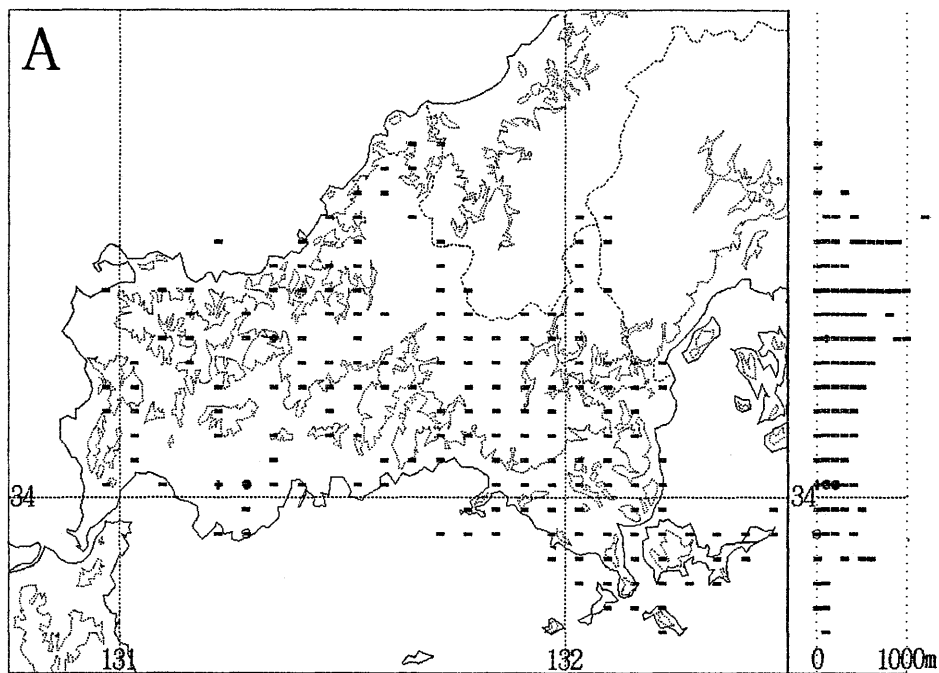


図 2. A: *Mallotus japonicus*. B: *Akebia quinata*.  
●標本 (Specimen). +文献 (Literature). —観認 (Observation).

イタドリ

Pnt= 176 Rec= 465



オオノツグサ Pnt= 185 Rec= 420

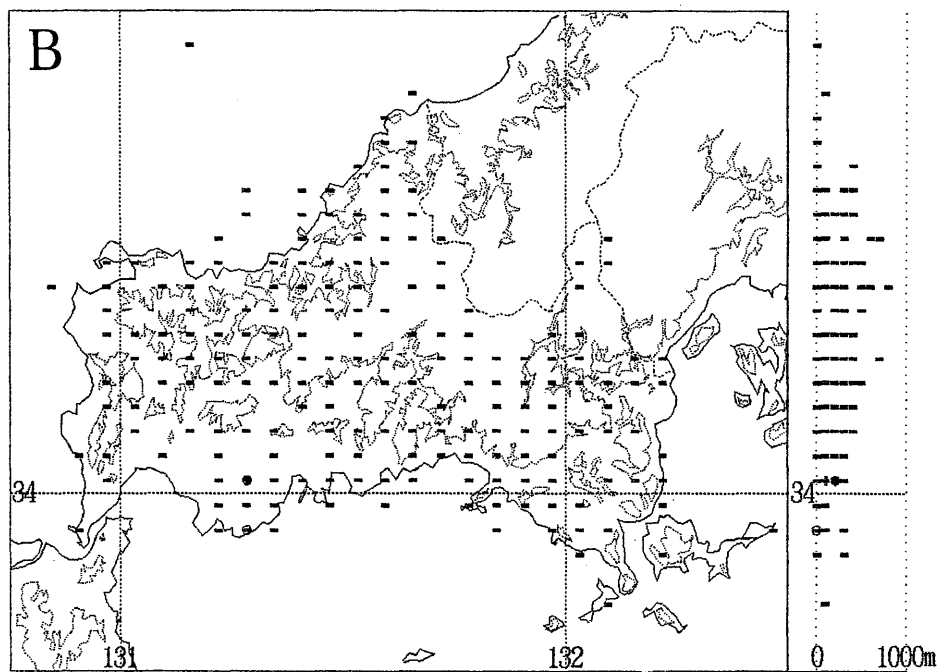


図 3. A: *Reynoutria japonica*. B: *Veronica persica*.

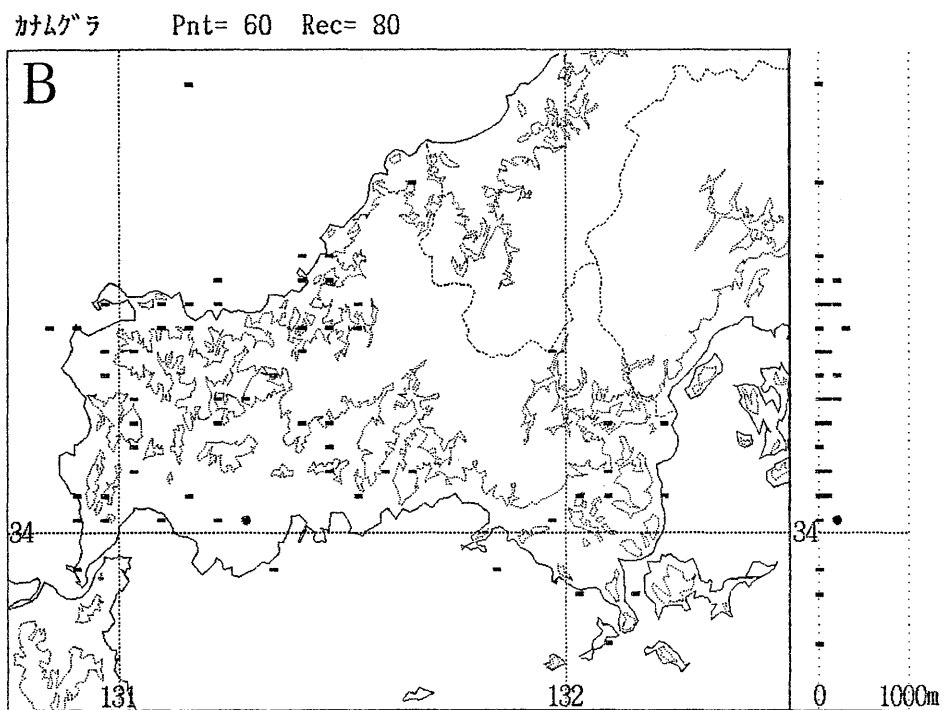
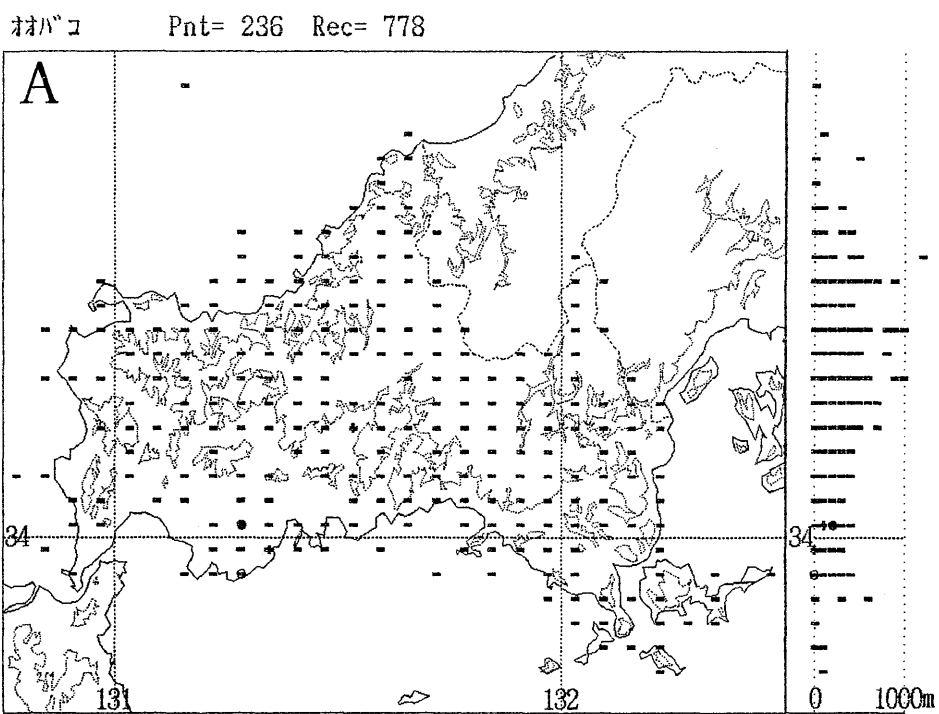
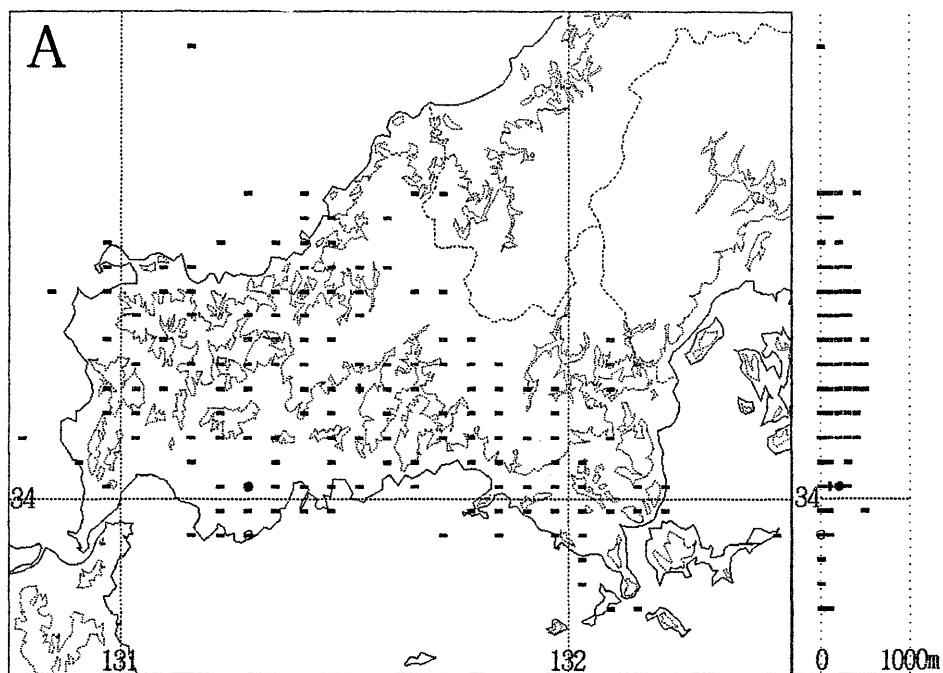


図 4. A: *Plantago asiatica*. B: *Humulus japonicus*.

キツネノマゴ

Pnt= 148 Rec= 298



クサギ

Pnt= 199 Rec= 490

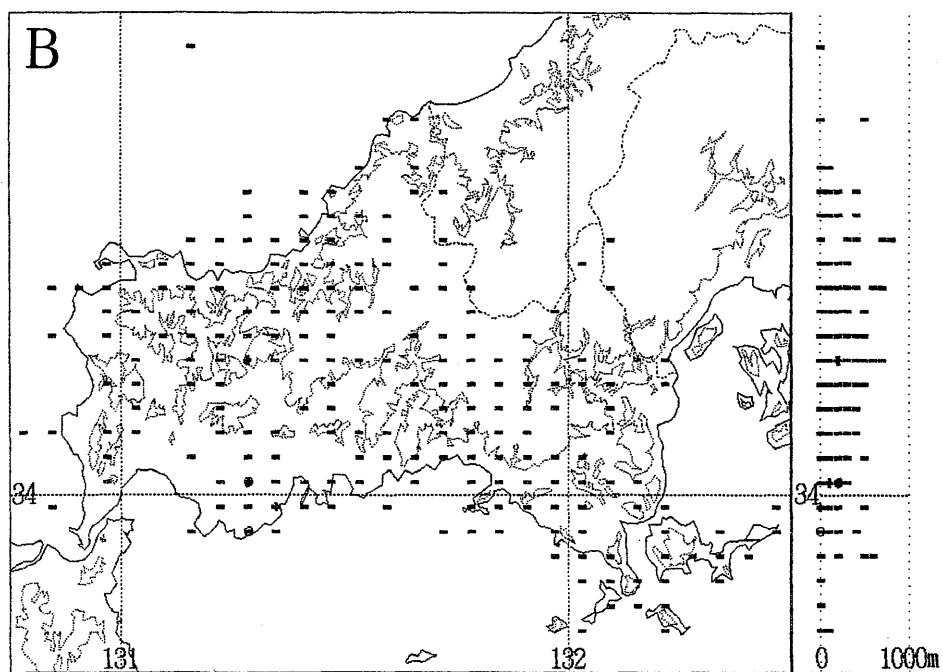


図 5. A: *Justicia procumbens*. B: *Clerodendrum trichotomum*.



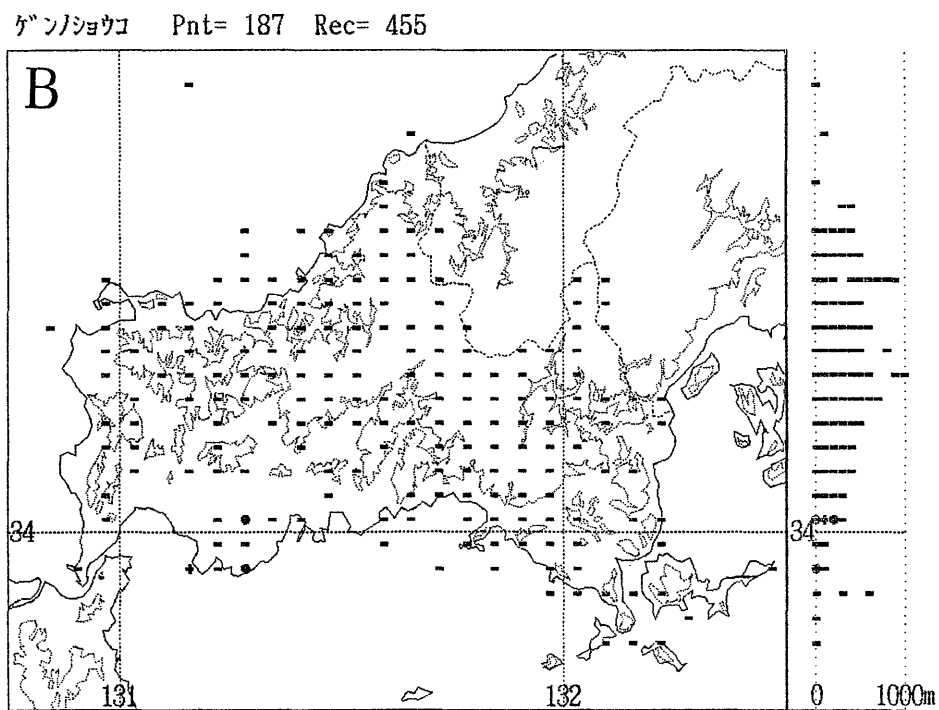
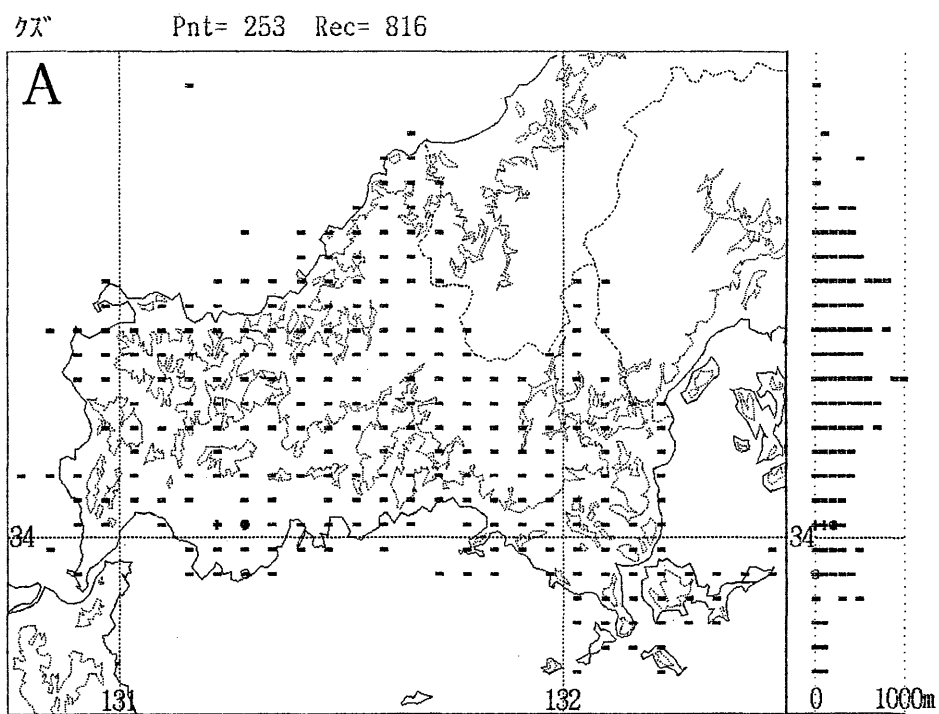
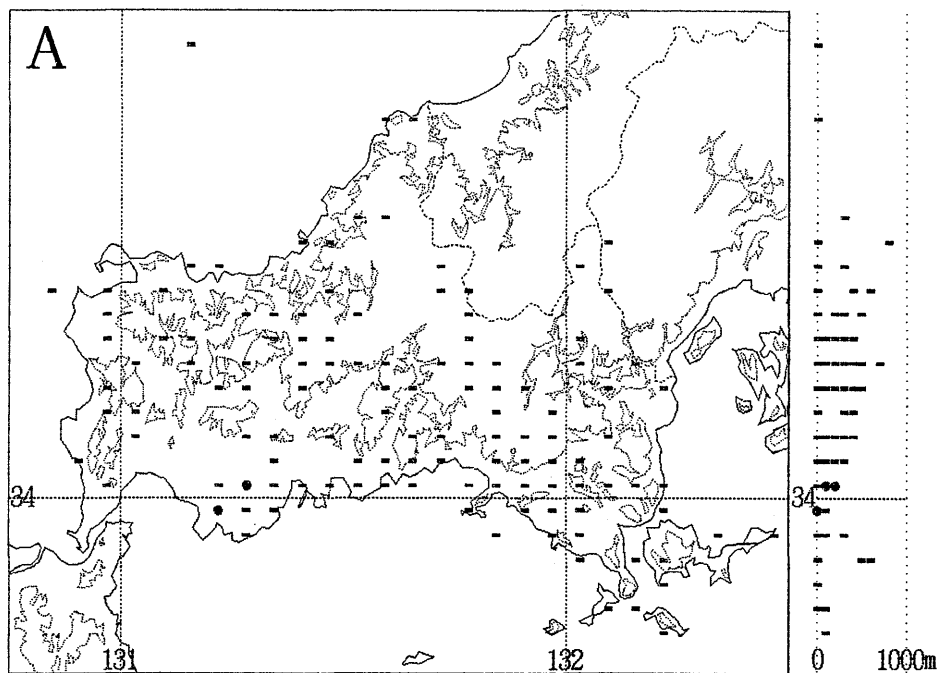


図 6. A: *Pueraria lobata*. B: *Geranium thunbergii*.

コマツナギ

Pnt= 119 Rec= 199



シロツメクサ

Pnt= 218 Rec= 637

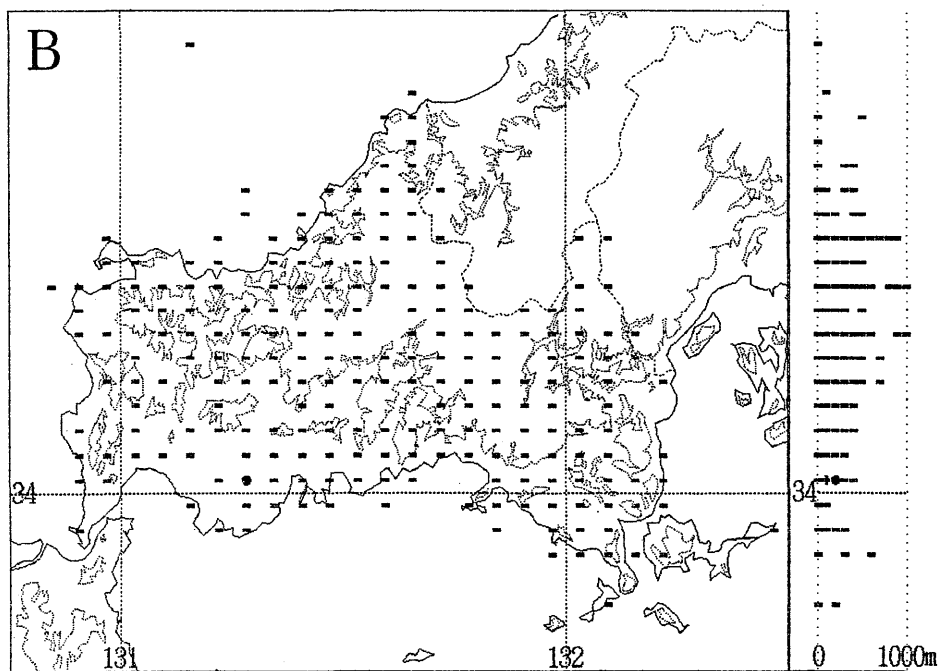
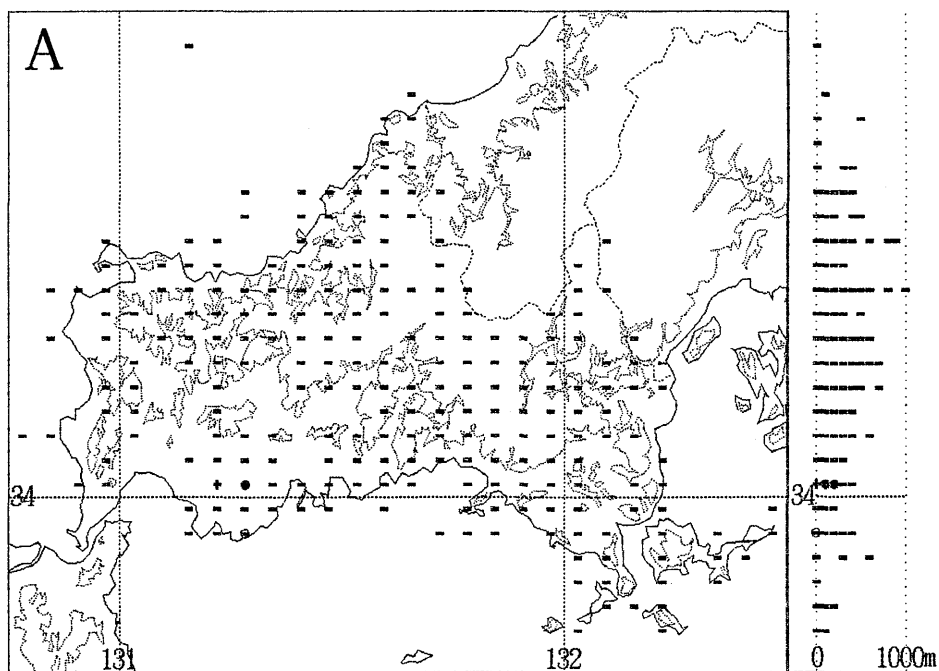


図 7. A: *Indigofera pseudotinctoria*. B: *Trifolium repens*.

スイカズラ Pnt= 227 Rec= 710



スハシロ Pnt= 57 Rec= 79

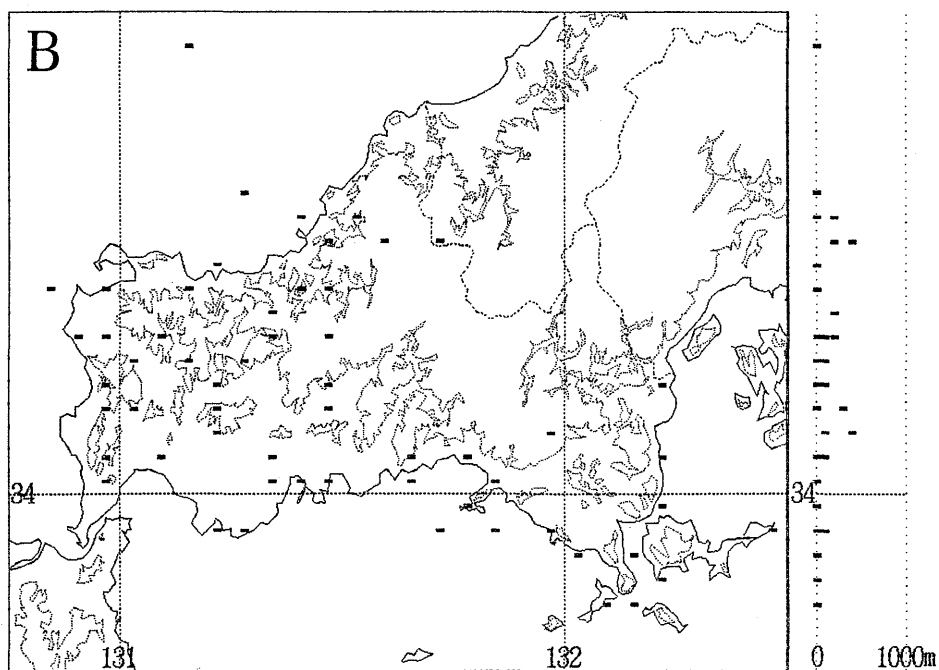
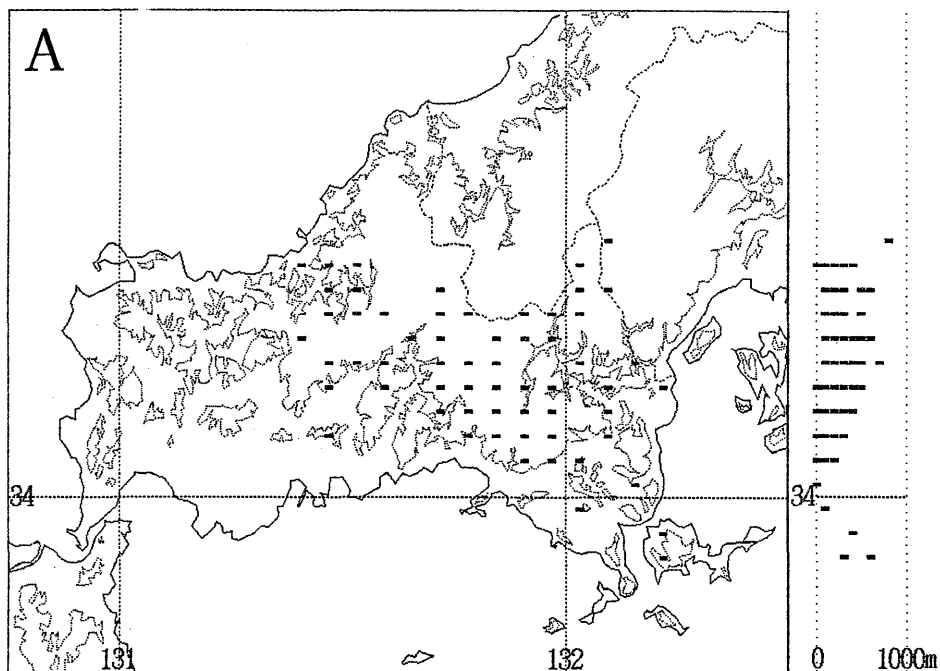


図 8. A: *Lonicera japonica*. B: *Portulaca oleracea*.

タケノグサ

Pnt= 60 Rec= 115



チカラシバ

Pnt= 129 Rec= 217

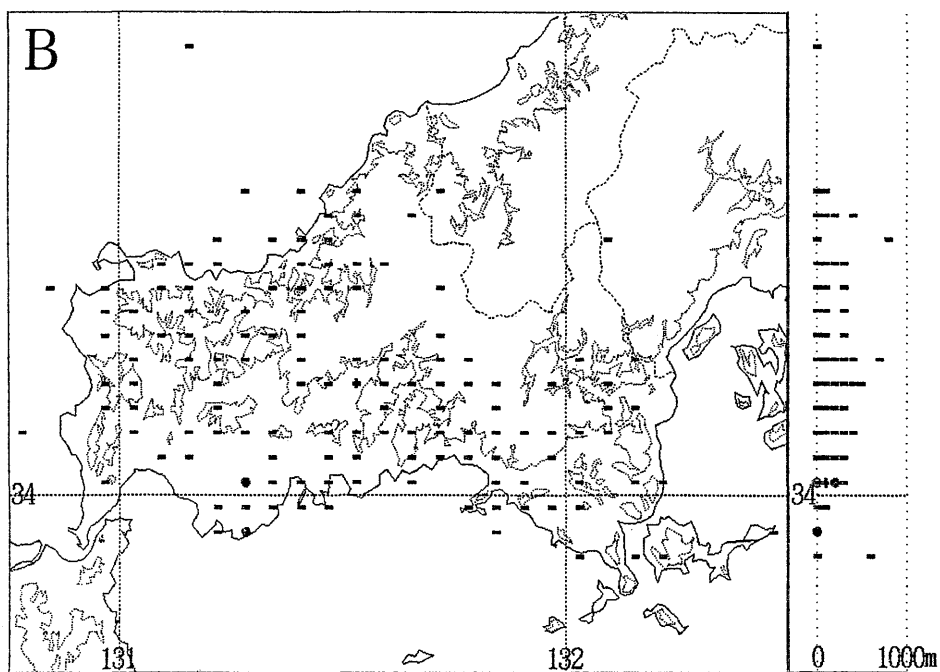


図 9. A: *Macleaya cordata*. B: *Pennisetum alopecuroides*.

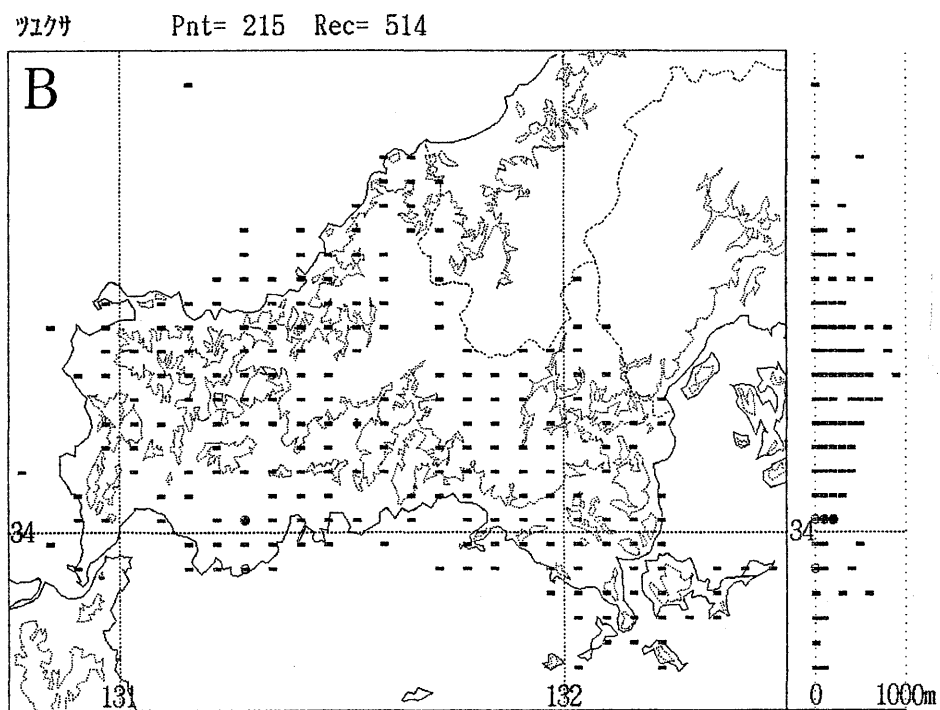
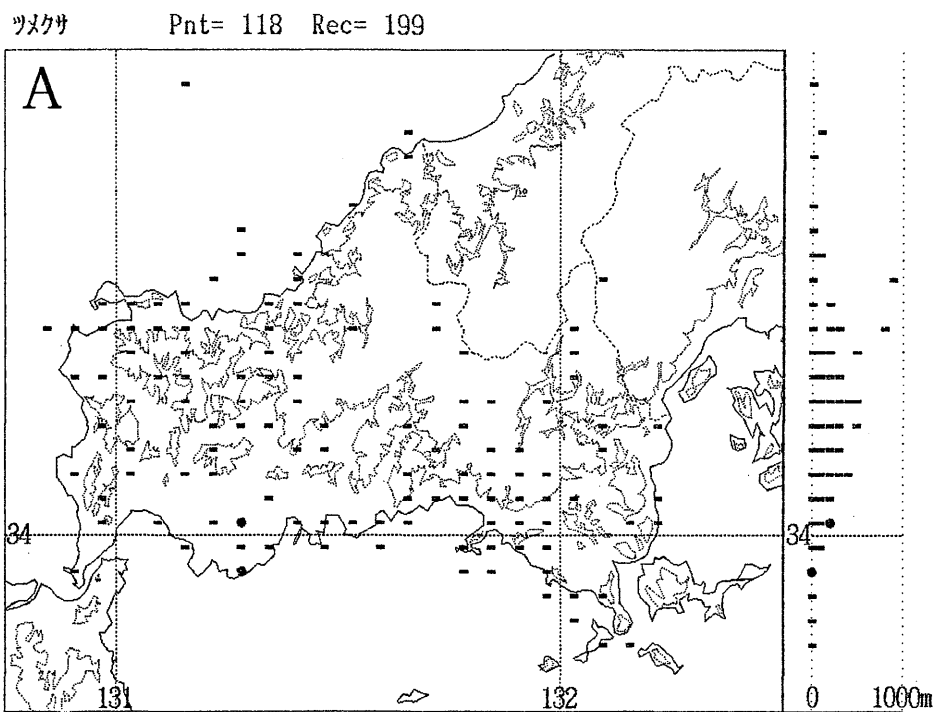
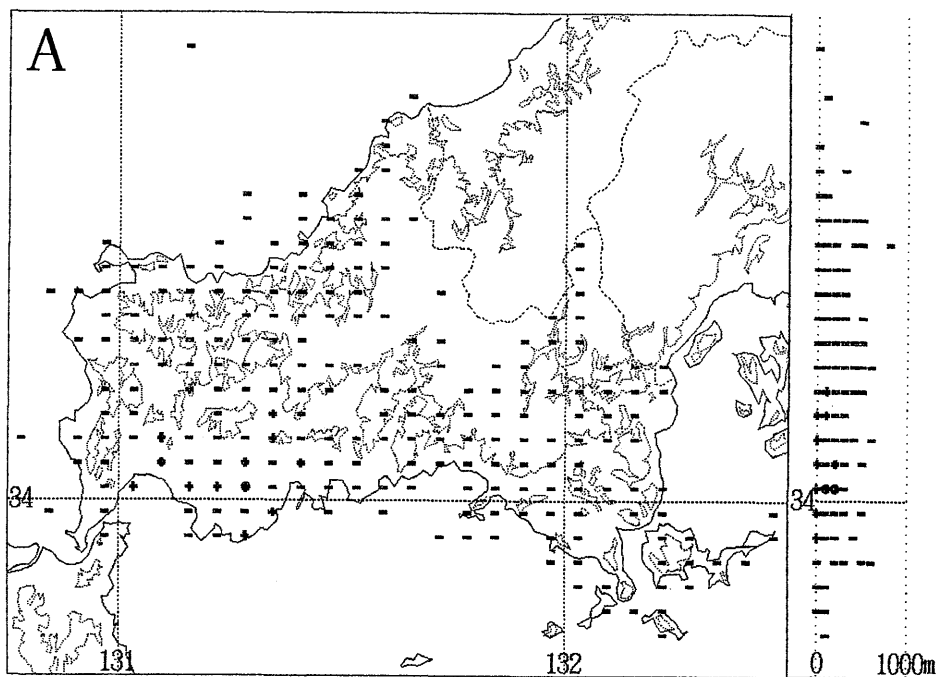


図10. A: *Sagina japonica*. B: *Commelina communis*.

タイカズラ Pnt= 219 Rec= 588



トクダミ Pnt= 130 Rec= 239

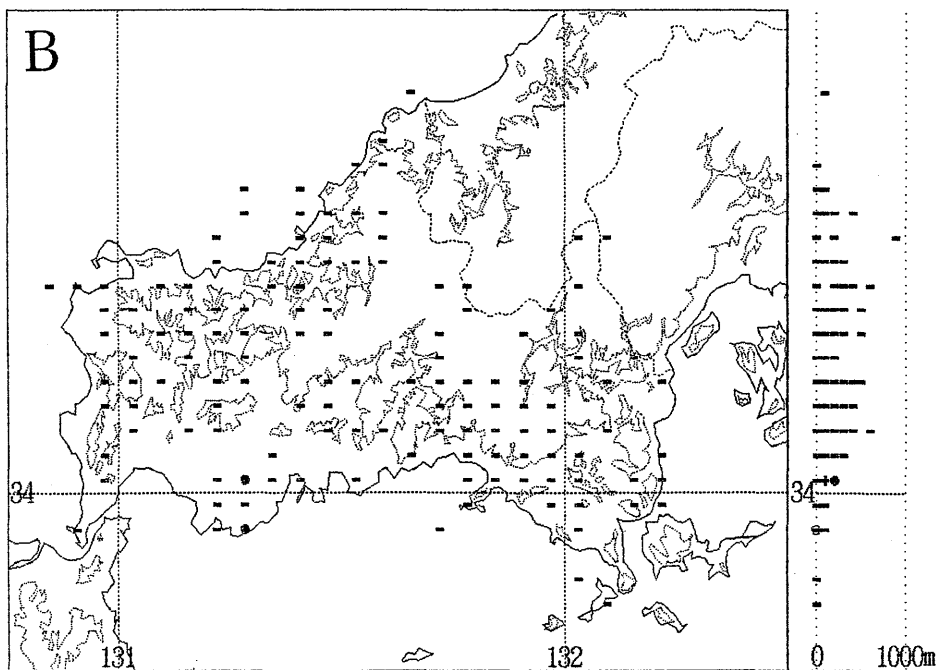
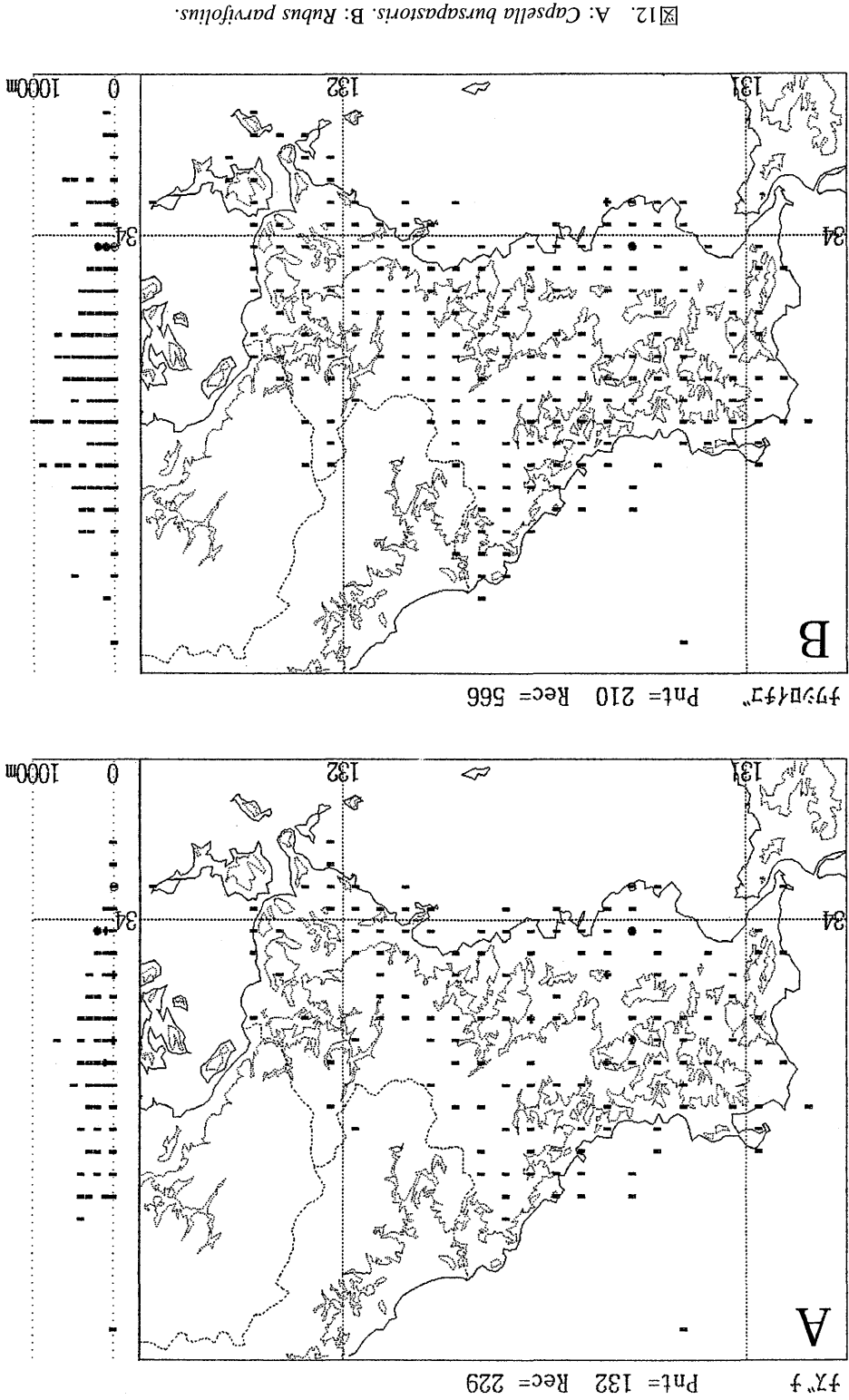
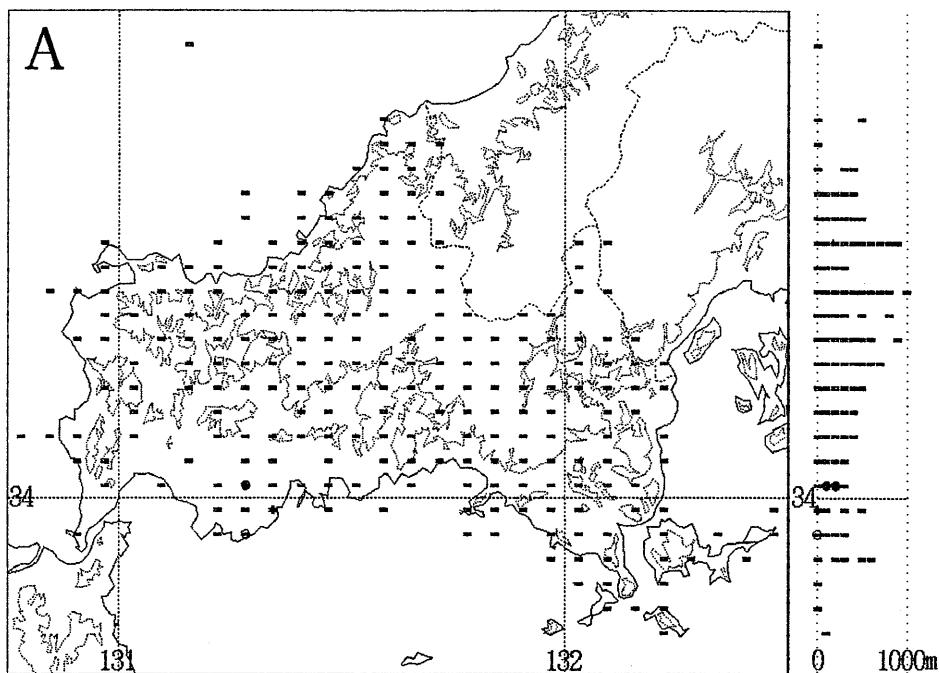


図11. A: *Tracherospermum asiaticum*. B: *Houttuynia cordata*.



スルデ"

Pnt= 227 Rec= 642



ネムノキ

Pnt= 203 Rec= 518

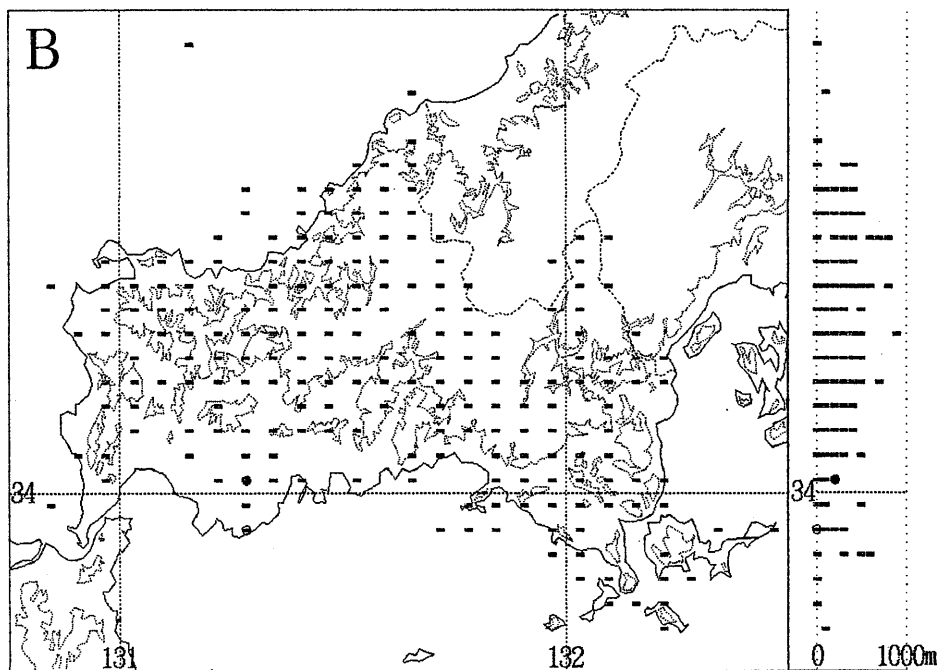


図13. A: *Rhus javanica*. B: *Albizia julibrissin*.



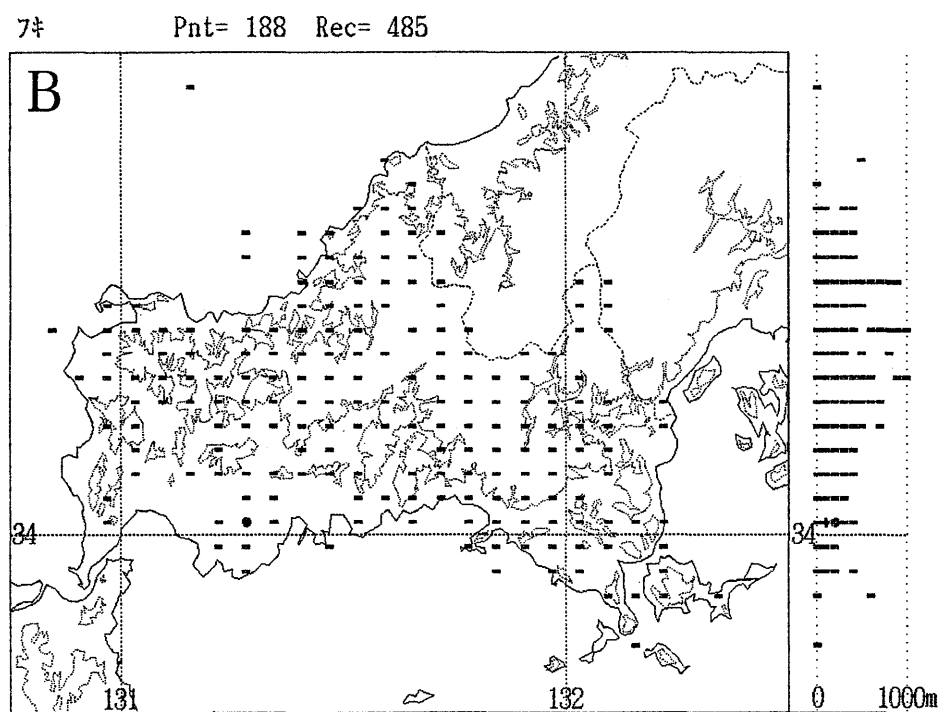
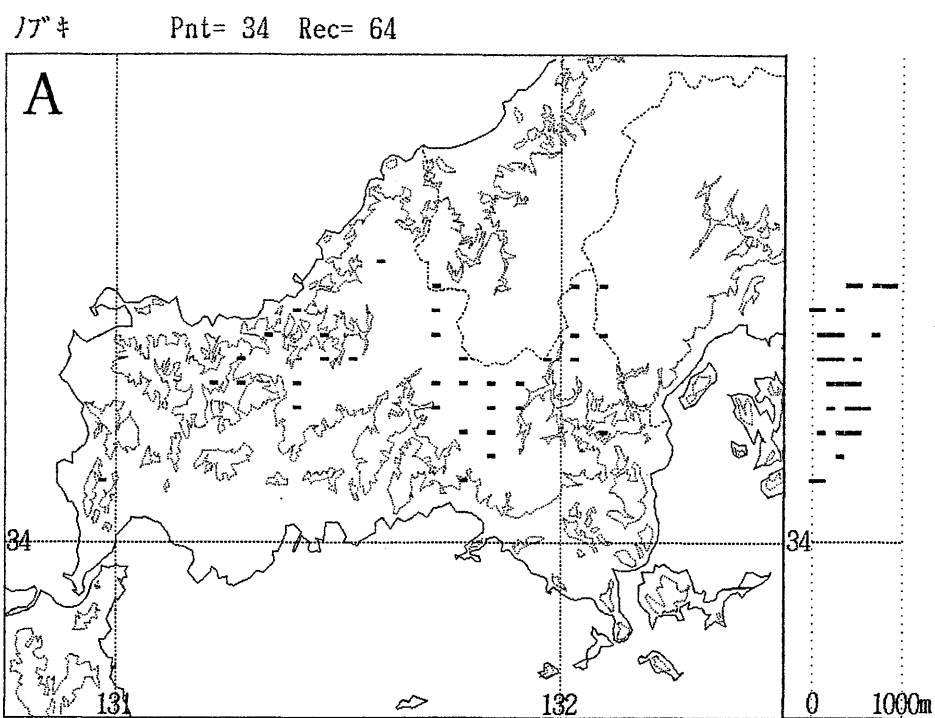


図14. A: *Adenocaulon himalaicum*. B: *Petasites japonicus*.

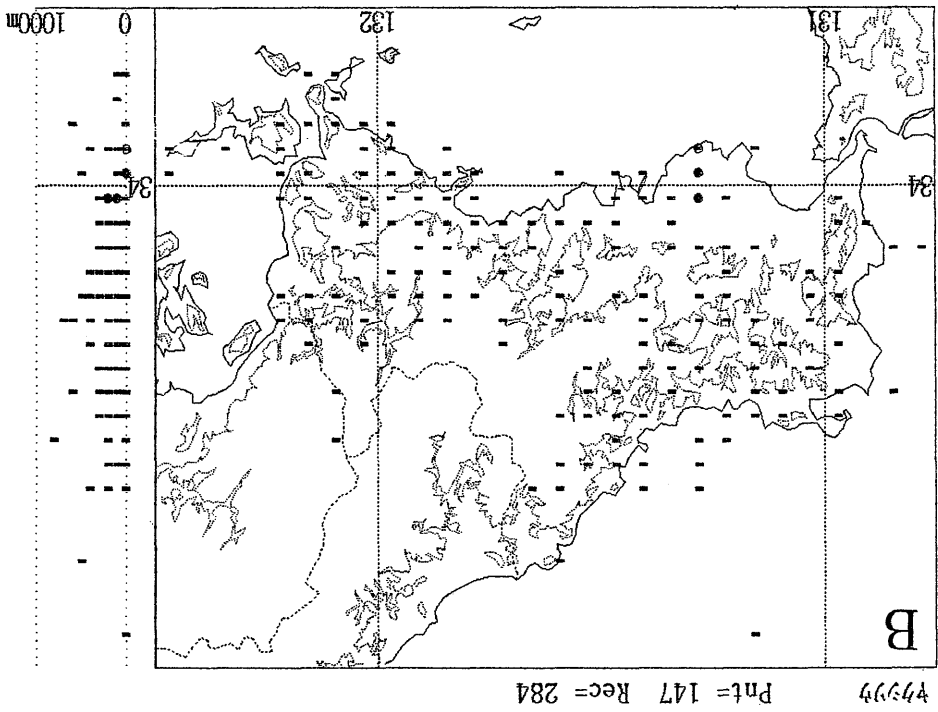
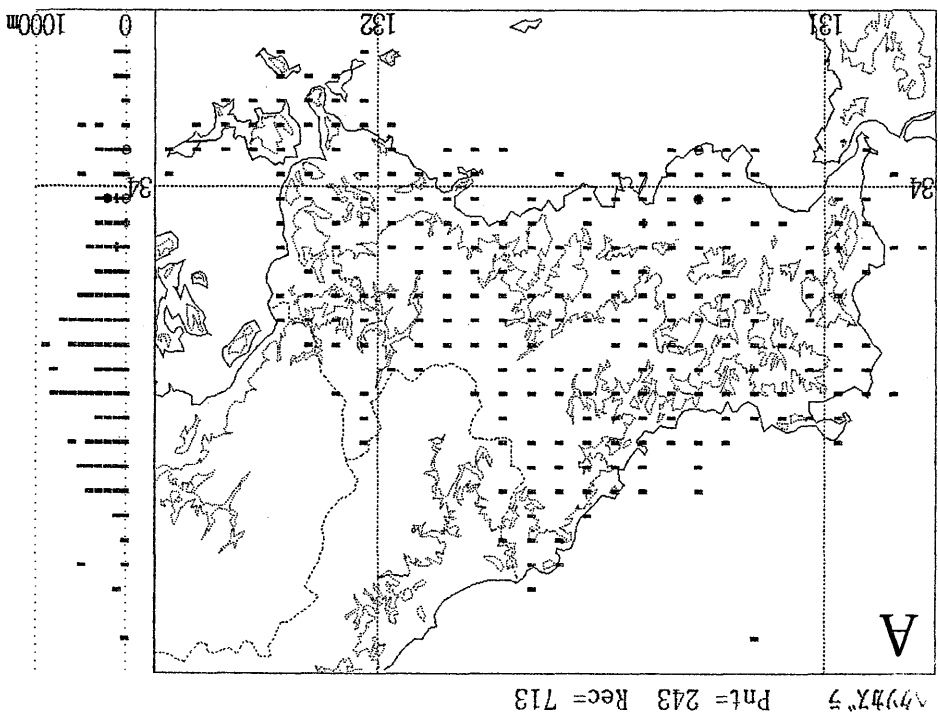


図15. A: *Paederia scandens*. B: *Youngia denticulata*.

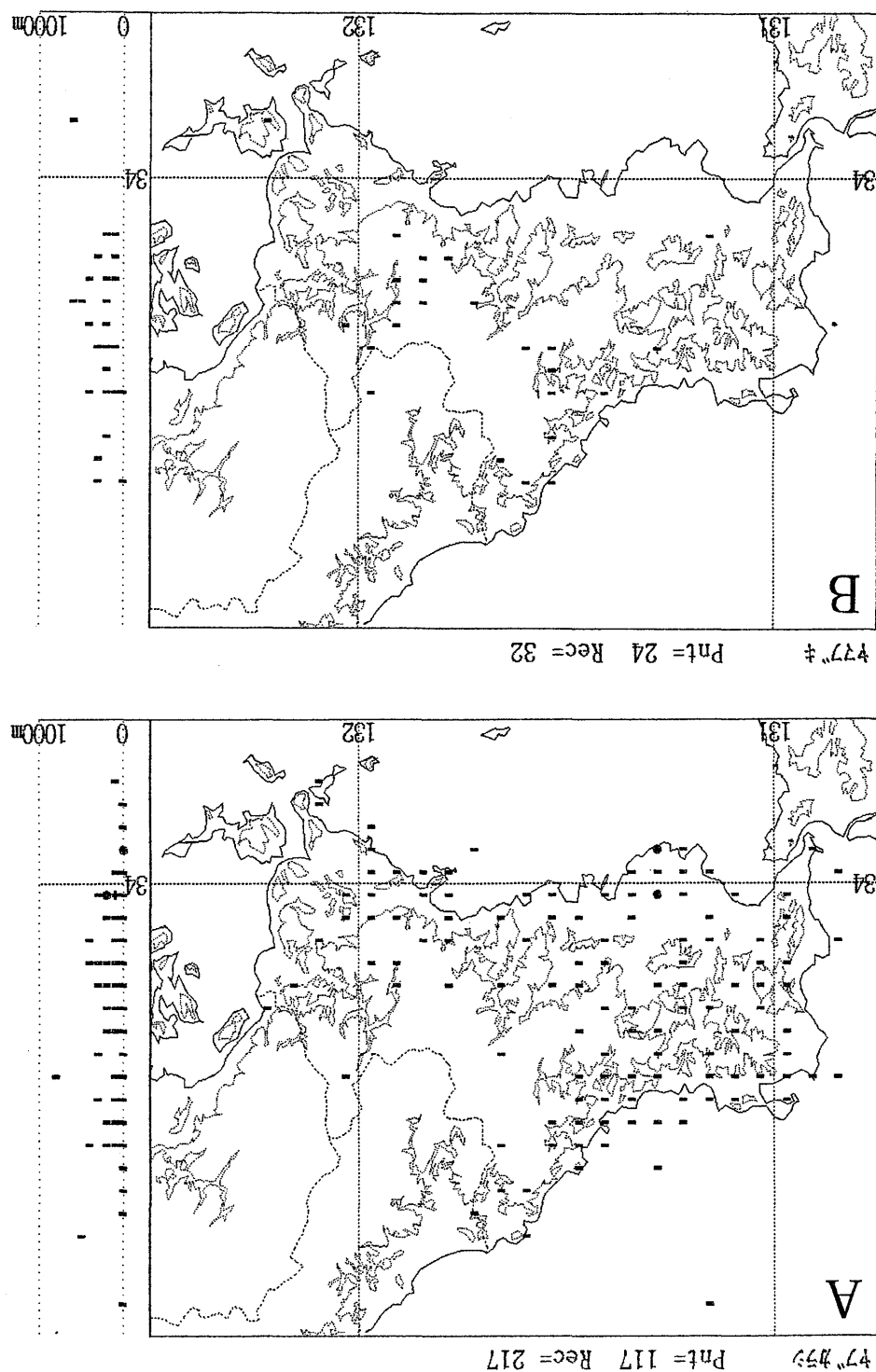


図16. A: *Cayratia japonica*. B: *Kerria japonica*.